

《担当者名》准教授/山田 康司

教授/前田 直良 教授/二瓶 裕之 教授/柳川 芳毅 教授/中川 宏治

教授/笠師 久美子 准教授/大澤 宜明 准教授/小田 雅子 准教授/寺崎 将

講師/土田 史郎 講師/水野 夏実

## 【概要】

福祉施設等における体験学習を通じて、医療人としての素養を養成することをねらいとする。近年の医療社会は大きく変貌し、薬剤師は医療人として今まで以上に社会とのかかわりが大きくなった。とくに福祉や地域社会における薬剤師の役割が非常に重要なものとなってきている。本演習では、薬剤師の医療・福祉施設などにおける活動を理解するために、講義だけではなく、現場における集中的な体験学習を通じて、地域社会における薬剤師の役割とその将来性について総合的に学ぶ。

本年度は、本学OBが所長を務める「社会福祉法人ゆうゆう」における福祉活動体験学習を軸として、ワークショップを通じた事前学習、報告発表会を通じた事後学習を含めた一連の授業を通じて、医療・福祉にかかわる知識のみならず、チームワーク、コミュニケーション、プレゼンテーション能力などを総合的に学修する。

## 【学修目標】

自らが問題発見、問題解決に向け、自発的に学習する態度・能力を醸成するとともに、障がいを持つ人などとの触れ合いを通じて、医療人としての適切なコミュニケーション能力を身につける。

グループ学習を通じて課題をまとめ発表するプレゼンテーション能力を身につける。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 ) 2	オリエンテーション	体験学習に向けての具体的な内容を概説できる。	担当者全員
3 ) 4	福祉施設の活動内容	福祉の現状と課題、実習施設を概説できる。	担当者全員
5 ) 7	事前学習	ワークショップを通じて、福祉施設における体験学習についてその問題点を列挙できる。 【SGD/PBL】	担当者全員
8 ) 10	福祉施設体験学習	福祉施設において実際に体験したことを説明できる。	担当者全員
11 ) 14	事後学習	グループごとに施設で体験学習した内容を、発表を通じて説明できる。 【SGD/PBL】	担当者全員
15	報告発表会	グループごとに施設で体験学習した内容を、発表を通じて説明できる。 【SGD/PBL】	担当者全員

## 【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

## 【評価方法】

取組み態度(25%)、体験学習の評価(25%)、発表内容(25%)、最終レポート(25%)

発表会時に発表後の質疑・応答においてフィードバックを行う

## 【備考】

適時プリント配付

**【学修の準備】**

福祉施設における実習がメインであるので、実習先での注意事項等を事前によく考えておく。(40分)

薬学生が福祉施設で実習することの意味をよく理解しておく。(40分)

**【関連するモデルコアカリキュラムの到達目標】**

F 薬学臨床

(4) チーム医療への参画 【 地域におけるチーム医療】1~4

**【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】**

1. 医療人として求められる高い倫理観を持ち、法令を理解し、他者を思いやる豊かな人間性を有する。

3. 多職種が連携する医療チームに積極的に参画し、地域的および国際的視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。

**【実務経験】**

笠師 久美子(薬剤師) 小田 雅子(薬剤師) 水野 夏実(薬剤師)

**【実務経験を活かした教育内容】**

実務経験から修得した知識、経験をもとに今後、福祉や地域社会における薬剤師としての職能に必要な知識・技能・態度について教育を行う。